

◎：よい点   ◇：期待・継続の要望   ■：改善点・助言

## 1 令和元年度事業についての意見・感想

経営全般	<p>◎ 「指標」に基づき、多岐にわたる研修の機会を提供していただいていることに感謝申し上げる。現場からの声を伺っても、大変勉強になったという評価が多数を占めている。</p> <p>◇ これからもニーズに対応していくことを期待する。</p>
研修事業	<p>◎ 受講者数やアンケート集計を見ると、充実した研修が行われたことがうかがえた。研修内容の検討や外部講師の依頼など、様々な面を考えながら進める必要があることと思うが、参加者のニーズにあった研修だったと思った。</p> <p>◎ 中心となる研修事業は、講座数、内容とも教員のニーズに十分応えるものだったと思う。基本研修は様々改善が加えられ、専門研修も喫緊の課題に対応したものになっている。あとは、学校側で教員が研修に出やすい環境づくりが課題である。学校との連携を強めていって欲しい。</p> <p>◎ 資料3-1を見ると、今年度も多くの講座を開講していただき、県教育センターとしての役割を十分に果たしていると思う。評価についてもA+Bがほとんど100%になっている。これも県教育センターの職員の皆様の努力の賜である。</p> <p>◎ 初任者研修の見直しをしていただいたことに、感謝申し上げます。校外研について、日数を減じていただいたこと、その中でも課業日を減じていただいたこと、課業日においても午後からの開催を中心にしていただいたことは、働き方改革の面からも、初任者を学校で育てるという面からも、とてもいい見直しをしていただいた。</p> <p>◎ 初任者研修や経験者研修等において、県教育センターの担当者と適宜情報を共有し、連携を図って研修を実施することができた。特に、研修体系の再編（初任研）においては、研修の在り方にあわせて、計画書等の見直しも進めていただいた。よりよい研修の在り方とともに、働き方改革を視野に入れた検討をいただいている。</p> <p>◎ 電子申請システムが順調に利用されている。利用者の声を大切にしながら、更に利便性の向上が図られることを願う。</p> <p>◇ サテライトの講座を実施していただいている。有り難い限りだが、もう少し参加者が欲しい。</p> <p>■ 充足率は何を表しているのか。さまざまな要因により変化する数値だが、その背景（要因）のうち大きな問題をそこから考え、改善することが必要ではないか。たとえば、教師に学ぶ意欲がないということであれば、多忙化という現場の課題があるにせよ、今後の教育における大問題である。このあたりの問題を学校、行政と連携して、解決することを期待する。</p> <p>昨年もふれたが、アンケートの「A+B」は見直す段階ではないか。</p> <p>参加した先生方が「何を学んだか」「何を学びたかった」について知りたいと思う。</p> <p>■ 教育庁総務課では「いのちの教育」についての中堅教員等研修の講座を担当させていただいたが、受講した教員の感想シートから「いのちの教育」の実践については、各学校での取組みが定着していると捉えられた。一方、なぜ本県が、「いのちの教育」を推進しているのかということや、施策としてどのように位置付けられているのかについては、さらに周知する必要がある。「いのちの教育」のみの講座から、「いのちの教育」を含む6教振全体への理解を深める講座への内容の変更が必要である。</p> <p>■ 中堅教員研修の日程について、4月当初の学級担任として最も大切な時期に、出張等で学級を空けるのは、その後の学級経営に支障をきたす恐れがある。一考頂きたい。</p> <p>■ 評価の未記入者が多いことに驚いている。特に校長や教頭研修での未記入者につ</p>

	<p>いては、しっかりとチェックし指導が必要である。</p> <p>■ 資料3受講者数及びアンケート集計について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整理番号25・26のA+B(%)の欄0.0%は違うのではないか。</li> <li>・整理番号39・40のA+B(%)の欄1.0%は違うのではないか。</li> <li>・整理番号8・9・12・13の受講者(初任者)にアンケート未提出・未記入者がいることが課題ととらえるべきではないか。</li> <li>・整理番号102の受講者(管理職)にアンケート未提出・未記入者4名もいることが課題ととらえるべきではないか。</li> </ul>
<p><b>研究事業</b></p>	<p>◎ 調査研究協力校の発表等があり、たくさん学ばせていただいている。</p> <p>◇ 小学校英語教育に係る調査研究の成果としてハンドブックにまとめられ配布されるということで大変楽しみである。さらにはそれと連動した研修プログラムの開発に着手している旨、これまた楽しみである。これらが授業づくりに反映され、外国語教育の充実につながることを期待したい。</p> <p>◇ 次年度は小学校において新学習指導要領が完全実施となるため、先生方は、プログラミング学習に対する不安があるようだ。「どの教科で何時間」といったことが示されてないことで逆に不安感が増しているように感じる。今年度の研修は実践的で学びの大きいものであったと聞いている。次年度、各市町村教委も独自に研修を計画しているが、県センターでは、研修のみならず、是非、教材の開発と、その発信に力を入れていただくよう願っている。</p> <p>◇ プログラミング教育への早急な対応が望まれる。英語教育と同様にハンドブックの作成、研修プログラムの開発等を行い、具体的な授業がイメージできる資料の整備や授業研究会を推進する必要があると考える。</p> <p>■ 進捗状況について理解するために、研究の目的と年度計画が簡潔に記述されていると事業評価や事業改善がしやすいと思う。</p> <p>■ 探究型学習の授業づくりの研究を中学校国語科において進められたようだが、さらに他教科へ広げていくために、長期研修生を増員して進めていく必要があると考える。</p> <p>■ B区分で長期研修生がいなかったことの原因を考える必要があるのではないか。</p>
<p><b>相談・支援事業</b></p>	<p><b>特別支援教育について</b></p> <p>◎ 基本研修、専門研修講座及び出前サポートと、きめ細やかな手厚い研修体制で授業づくりや指導力の向上を図っていただいていると感じている。</p> <p>◇ 特別支援学級新担任講座は毎年多くの参加者を集めている。講座内容について苦労されていると推察する。</p> <p>◇ 令和元年度研修講座の評価が全て高い評価で、企画運営した県教育センターの指導主事の先生方に大変感謝している。ただ、講座番号103特別支援学校初任者研修③(中)でC評価が1名いたところが少し気になる。どのあたりがあまりよくないと感じたのか本人に聞いてみたいところである。</p> <p>■ 令和元年度研修講座受講者数一覧で、講座番号S01～S08の受講者数充足率の低さが少し気になる。年々特別支援学校のセンター的役割である巡回相談等で、発達障がいに関する相談件数は増えているが、研修講座の受講希望者が少ないのはなぜなのか知りたい。各校の特別支援学級の担任の先生方やコーディネーターの先生方が、日々大変ご苦労なさっている姿を見ている。教育センターの基礎的な研修を受けた方はみな高い評価を付けている。発達障がいの児童生徒の障がい特性や支援のあり方が学べ、日々の指導に必ず役立つと考えるが、現場が忙しすぎて研修に出るのを遠慮しているのではないか。管理職の先生方へのアピールが必要ではないか。</p> <p><b>教育相談について</b></p> <p>◇ 相談業務を土日祝日も開設していただいていることに敬意と感謝を申し上げたい。まだまだ相談窓口が周知されていない感あり。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 研修講座と出前サポートで対応していただいているようだが、いじめについての早期対応、懇切対応という点で現場に浸透・定着が薄い感じを受ける。(いじめの相談をどこにすればよいか困っているという相談が県P連にあった)</li> <li>■ 相談の数が多くなっている。センターにおいても人を増やすなど、適切な対応をしていかないと業務が進まなくなるのではないかと心配している。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 「カリキュラムサポートプラザ」は学校現場が活用しやすい支援・研修であり大変有り難い取組みである。特に出前サポートは各学校からは好評のようだ。さらなる充実を期待する。</li> <li>◎ カリキュラムサポート事業で、11月まで400件を超えたサポートをしていただいていることは高く評価したいと思う。特に今年度は、来所、資料提供のサポートが増えているのは好ましいことだと思う。県教育センターとして、職員の多忙化が進んでいるのが現実で、ひところのように出前サポートにばかり注力できない状況にある。今後も居ながらにしてできるサポートをより充実して欲しいと思う。</li> <li>◎ 情報教育について、整備状況が各地区により違っている現状で、丁寧に対応していただいている。</li> </ul>

## 2 令和2年度への取組みについての意見・感想

経営全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 社会環境の急速な変化と学校を取り巻く環境変化が著しく、大量退職・大量採用により年齢や経験年数の不均衡による弊害がこれから生じると予想される。また、学校教育課題の多様化・複雑化はますます加速している。教師の学びへの期待は大きい一方で、多忙化などにより、その実現はむずかしい状況にあると思う。学びの機会と環境を提供できる取組みをこれからも継続して欲しい。</li> <li>◇ 経営評価委員会で「受講人数は少なくとも必要な講座はある」という意見があった。教育を取り巻く環境が大きく変化する中であって、私も同じように考える。社会状況や山形県の現状を踏まえながら、引き続き事業を推進していただければと思う。 小学校では、新学習指導要領による授業が本格的に始まる。先生方の意識が一層高まる年であると思うので、参加した先生方が手ごたえを感じることが出来る事業になることを期待する。</li> <li>■ 各講座とも、研修資料の事前配布などオンライン化できる部分がないか本格的に検討願いたい。学校現場が研修に出にくい状況を考慮すると、効率化、省力化がより一層求められる時代になっている。教育相談などもSNSやネット利用が可能なのではないか。</li> </ul>
研修事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 基本研修実施協議会でも話したが、令和2年度から初任者研修を3年間に分けて実施していき、初任者がじっくりと研修を深めていくことによって、しっかりとした指導力を身に付けられるように育てていくということで、大変ありがたく感謝している。ぜひよろしく願いたい。</li> <li>◎ 同じく初任者研修について、校外での研修をなるべく午後に設定し、授業に影響が少なくなるようにしている。また、後補充講師について、小中学校では来年度から廃止されるが、自学自習が困難であり一時も目を離すと危険である特別支援学校では、後補充講師を継続するというので、大変ありがたい。</li> <li>◇ 教員が自身のキャリアについて考え、より自発的に資質向上に取り組めるよう、「山形県教員『指標』」を各講座で積極的に活用いただきたい。</li> <li>◇ 引き続き「山形県教員『指標』」に基づいた「山形県教員研修計画」に沿って、各キャリア・ステージに求められる資質・能力の育成をより重点的に進めていただきたい。特に学校現場では、「充実期」にあるミドルリーダーの育成が急務である。</li> <li>◇ 初任者研修をはじめ研修体制が、今後大きく変わっていくので、スムーズな移行が図られるように教育センターと協力し、連携を密にさせていただきたい。</li> <li>◇ 経験者研修対象者のリストアップについては、遺漏のないよう連携を図っていく。</li> </ul>

	<p>そのためにも、教職員課と県教育センターとの連携も十分に図っていただきたい。</p> <p>◇ 研修講座が即効性のあるものにさらなる工夫改善を行っていただきたい。</p> <p>■ 本県の教員として、必ず知っておかなければならない本県の教育振興計画や指標について理解するための講座が必要。（例えば、初任者研修、中堅教諭等資質向上研修では、必ず1コマ設定するなど）</p> <p>■ 山形市が中核市になり、独自に研修を行うようになった。研修場所が近いこともあり、子どもを帰した後から研修に参加できるようになり、本校でも1人1講座はできるようにと声がけしたところである。そう考えたときの県教育センターの研修はどうあるべきか、今年状況を分析して、次年度に生かしていくべきである。講座の開催場所・時間、さらに、参加人数に最適な内容など考えたい。</p>
相談・支援事業	<p>■ 今後10年程度はベテラン教員の大量退職への対応が「研修分野」でも強く求められると思う。特に以下の3点に対する育成・養成が市町村教委も県教委も急務であると考えている。</p> <p>①言語通級指導教員の育成・養成</p> <p>②特別支援教育の相談員（W I S C I Vの検査並びに面談ができる教員等）の育成・養成</p> <p>③教育理念や教育技術の適切な継承を目的とした若手教員の研修</p> <p>特に、②については、市町村教育委員会や校長会でも喫緊の課題として捉えているので、特別支援教育の相談員の育成・養成を目指した計画的な研修に、市町村教委や校長会も協力していきたいと思っている。声を掛けいただければ幸いである。</p>

### 3 県教育センターへの期待や要望

経営全般	<p>◇ 本県教育の水準向上及び教員の資質向上に向けた事業推進に期待。</p> <p>◇ 様々な面で連携させていただいた。県教育センター・各教育事務所・本庁がつながって進めることが、学校現場にとって大切であると思う。来年度も、よろしくお願ひしたい。</p> <p>■ 6教振後期計画において重点となる取組みについての研修の充実をお願いしたい。</p> <p>&lt;重点となる取組みに関わる研修の例&gt;</p> <p>「主要施策2 思いやりの心と規範意識の育成」「3生徒指導・教育相談体制の強化」に関わって</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の指導や保護者の教育相談に効果的に活かすための、SCやSSW等の外部人材の役割についての理解や連携の仕方についての研修</li> </ul> <p>「主要施策7 主体的・協働的な学びによる確かな学力の育成と個々の能力を最大限に伸ばすための環境整備」に関わって</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数・数学、英語の学力向上に向けた児童生徒の学力を分析・評価する教師の力の育成に係る研修（小・中・高等学校）</li> <li>・全国学力・学習状況調査及び山形県学力等調査からとらえる、児童生徒に育成する学力と授業方法に係る研修</li> <li>・探究型学習を通して育成される生徒の学力を分析・評価する教師の力の育成に係る研修（高等学校）</li> </ul> <p>「主要施策8 グローバル化等に対応する実践的な力の育成」「2『グローバル』な視点を踏まえた地域課題に向き合う力の育成」に関わって</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間等での地域課題を題材とした授業方法に係る研修（高等学校）等</li> </ul>
研修事業	<p>◇ 大量退職・大量採用の時代を迎え、若い教員が年々増加している状況にある。県教育委員会作成の「指標」に基づいて確実に力がつく研修を期待する。</p> <p>◇ 動画配信などを利用するなどして、校内で研修できるようお願ひしたい。学校を</p>

	<p>空けての研修はなかなか厳しい状況にある。職員会議後や長期休業中に研修できるようになれば校長として大変ありがたい。</p> <p>◇ 近年、先生方が学校外に出られない状況がさらに顕著になっていることを感じる。研修を受けたくとも目の前の対応に迫られている状況である。先生方の研修の機会をどう担保していくのかが、当面の最も大きな課題である。ICTを活用したコンテンツの配信などは、すぐにでも実施を望みたいと思っている。その他、先生方の研修機会を担保するための県センターの創意工夫に期待したい。</p> <p>◇ 先生方に負担をかけずに、悉皆研修の受講漏れが生じないような方策を取れるようにしたい。研修履歴管理システムの構築を検討していることは、大変ありがたいことである。研修講座における電子申請システムのような運用が図られたらと思う。</p> <p>■ 6教振後期計画の各分野の施策の柱において、研修の充実が盛り込まれているが、その研修については、学校におけるOJTに活かせる等、実効性のある内容となるよう検討いただき、「山形県教員研修計画」に盛り込んでいただきたい。</p> <p>■ センター、教育庁各課、教育事務所の研修内容の重複を把握し、講座の内容の整理・充実に向けた検討をお願いしたい。</p> <p>■ ※<sup>1</sup>初任者の増加に伴って、研修会場や施設の受け入れがとても困難。※<sup>2</sup>特に少年自然の家等における宿泊研修は、義務(小・中)、高校籍、特支、養教の一斉研修があり、会場の選定が難しい。高校籍【高校課】、特支【特支課】、養教【スポ保】は、全県で実施する方向を検討願いたい。現状通りであれば、各課からの協力を願いたい。</p> <p>※1 山形市が別開催で行っても、村山は人数が多い。</p> <p>※2 朝日少年自然の家は、例年子ども主体のチャレンジキャンプが同時期に行われている。</p> <p>■ 学校事務職員の研修の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム学校のキーワードのもと、学校事務職員を含めた学校体制づくりが必要になっていて、学校事務職員に求められる業務が多様化していることから研修の必要性が生じていると感じている。※事務職員からも研修を求める声が増えている。</li> <li>・すぐに研修が準備できないとしても、先進事例を集約することや、実践を発信している学校事務職員を講師にするとか、インタビューを行い、まとめを発信するなど、できることから取り組んでいただくことが事務職員の研修ニーズに対応することになると考える。</li> </ul> <p>■ 以下の件は、以前から申し上げていることであるが、県センターの研修対象者を「教員」から「教職員」へと広げていただきたいと強く願っている。</p> <p>「事務に従事する」から「事務を司る」と職務規定が明確化された事務職員は、山形県では、「指標」が示されず、研修の機会も十分とは言えない。ベテラン事務職員の大量退職で若手事務職員が増えていく中、チーム学校の有力メンバーである事務職員の資質向上は喫緊の課題である。他都道府県では、事務職員研修の充実が図られている。本県の研修体系に「事務職員」も入れ、学校事務職員の研修の充実を図っていただきたいと願っている。</p> <p>事務職員の研修の体系化については、県連小校長会・県中校長会の理解と支援のもと、山形県市町村教育委員会協議会の山形県教育委員会への要望書にも記載されていることを申し添える。</p>
<p>研究事業</p>	<p>◇ 探究型学習の先、小学校英語教育やプログラミングから中・高への教育課程・教育方法の展開など、センターでしかできない長期的な見通しをもった、挑戦的な取り組みをこれからも期待している。</p>
<p>相談・支援事業</p>	<p>◇ 特別支援教育に関する研修をさらに充実させて欲しい。できれば、教育事務所に特別支援教育に精通した指導主事の配置を行っていただければ、研修がさらに充実したものになるのでは。是非検討頂きたい。</p>

<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ カリキュラムサポートについて多くの要望がある。出前サポートも含めて、今後も引き続き、予算の確保・事業の存続をお願いしたい。</li> <li>◇ カリキュラムサポートの「特別講座」では、昨年は大谷大学の荒瀬克己氏、2年前は京都大学（当時）の溝上慎一氏の講演を拝聴する機会に恵まれ、探究型学習を推進する上での極めて有意義なご教示をいただいた。このように、学校単独では呼べない講師を招聘し、県内の教員に研鑽の場を提供するのは県教育センターの重要な役割だと思う。今後も是非継続願いたい。</li> <li>◇ 探究科・普通科探究コース設置6高校を中心に、課題研究の実践データが年々増えている。昨年の東北・北海道地区理数科教育研究協議会でも話題になったが、これらを集積してデータベース化したり、優秀発表事例をライブラリー化したりしておく必要性を感じる。この仕事を県教育センターにお願いできればありがたいところである。</li> </ul>
------------	--